HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	社会誌学
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Description	社会誌学講義東洋大学社会学部
Issue Date	1965
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77365
Type	manuscript
File Information	N036_01S40.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

宗教概説の体
山田宗睦
1/6
3一 [illegible]
[illegible]

小田急

OX
30

NOTE BOOK

Manufactured with best ruled foolscap

社會誌學
昭和四十年度

VOL.

社會學部講義

鈴木教授

日本の社会学者の研究における考察は何れの分野に関するものも、今世紀に近代化して或る激しい大規模の国民移住における社会変化を考察する事は出来ない。

氏社会変化は日本国民の社会的体質の変、変を意味しているものであるが、この変化は具体的に何を意味するか。その変を明らかにする事が第一に必要である。

この社会変化は具体的には国民社会の外枠の拡大であって、物質の出入、文化の出入、個人の出入に色々の制限がとれた事である。

体質の変度と共に近代的な社会体質から

近代的諸体験を経つつあるのである。
国民総くるみの都市化であるがゆえに
都市化ともいってしまえる。日本は国民全部
が都市生活者となりつつあるともいえる。
そしてこんな結果を引き起した直接の現象
は社会的交流路の整備であるともいえる。

日本の家族と中国の家族（分析家族）

日本の家族は死教は法共式。ステ子の詩と中国のどんふく教し。更家長横家族は中国のう。

日本の家族の欠点は婦の伝統。

体験共同体は家、同族の教同教養の高さ（で障害する。）

他人と仲丈が他人であってあいだ見える

かあれは寺の地ばり寺分。結婚と仲の

家と一体化の例もある。

家中心の家族（分家でも独立すれば家中心。よくくのうでうければ本家の助けはかり的。

ヤイトマキ、と高英夫の涙先の家分。一家の心中。

真実な人間の心は変ーかいしい。

東京の市内道路が最近から俄かに繁盛し交流

家風が出来たのは東京生活の最近の事情として

的貧弱なる。日本中のどこでも日本は

何もかも変りつつある。外観れおけ。この

変化によれる日本中の地方の変り方は

社会学的には何と呼ばれるか。

社会学は今日の日本の変化の中心的

変化として次の様なものをよみとっている。

（一）家族制度―直系家族より夫婦家族へ　中国の場合

（二）村落制度―自然村―行政村　農村部落家族

（三）都市制度―常線構型―落葉構型へ　ライン・コミュニティー　農村の国土

（四）家族制度―完結型―開放型

（五）地域的交流現象の圏の拡大は家の経済

凡そ人が人を愛する心の延長は老人病
院を一団の神から見すて次慣習が出来
父のあれ送（そして）もクールビヤンのう。
今日本人の心の割りあいすきたりは子を顧みない。
夫妻、子夫妻同居の家族のイタリー中心
最近の絵ではは本の高令女性とボーヤンドの高令男性
がどい眼ゲて自殺が多い。自殺の多少は法制度
かある。

家族制度の定節は今まうとりはおもかせ
二十年ばかり経ては忠孝なる家制度はうつり変るか
中日の例は最近すきである。
毎年新せりする中日の夫婦子は公共の管理に出すか
共産国の家族。共に夫婦はオスとメスの関係。
現家族制に対する心構へ
平和な生活のあい人同年重の中に
一家族を中心で祝福の中に子は生れ、一家の悲しみの中に老人が
死家族、それが理想であるはたしかである。老いた病弱の老人
と幼少の子供が大事にされる家族それが古今家族だった。
日本のヒューマニティは家共同体の中に形成されていた。
マクロ経済ーバーは日本の資本主義経営の拡大は三ヶ月
学んだとも、ともかく家に名誉と富を言葉すると
きとしたは本人の人生観、家族は自分から親の指
○しはクリーンの組織もうみ出してい
この地よすき家族制をこわすために株式組織にする。

家族的結合の中は現在と近下の結
意味の世界の報酬的
結合の中は個人の知的自覚的今日
一般大衆は感情の対立抗争

絶叫を以て米国の指導を達かすべきだ。

第二回

前回の宗教界の変化は国民の社会体質の
最深部における変化であるべき力道したが、
この点は如何に若干の宗教はないか
であるか。前回には紹介の中の
紹介と宮の言葉の力の限
りをつくすべきは本人は命をかけ夢をもつ
いわゆる本人は幸福であるべきが人生教授
であるべきかは我はなくなりは本人は虚
の此無に入ったるを述べた。人生とは何か
一般の人には虚無の出来る問題ではない。
その広大な大問題である。又
そんなは本人の宗は死れは法共成っあるべ
大きな問題のすべての中の指導者の宗

後ではなかなか難しい。

第一番目にあげたのは二つの点がある

一つは日本人の勤勉の後に集団活動の

合理的組織を作ったこと

日本人が我先に早く立ち直った者の集団は

物質的豊かさがある。

レーガンの果たすべき意味。及ばずながら

私たち日本人には余暇をどう使うかが問題

昔はたまったお金は使い切れないほど多かった

年中行事には休暇のほかあった。たくさんの祭り日、

市日、初午の日、お正月等の節句日、

今のレーガンは消費革命の波。過剰な

費をなくするために、消費のための消費、一ぺん使ったらすてるが徳とする考えらしい。家賃の問題迄出て来、作るためこわし、せっかく使っても一度使ったらすぐこわす。こわしては作り作ってはこわす作業の中に土建屋だけはまる仕事、経費を税金でおする国民こそ迷惑な話。商売と建設はえんぎをする国にあるものがある。

私達の少年時代のお習字の紙はまっ黒になった。字は人間社会のものの考え方。

私は思う国民の必ないル多業と商売積すところは第二、財産するところは

※
日本に又人数の世界に合もない人が殖ってゆく国は物は大事にすすめてある。

でいるようなのではないのか。
また今の乱費をなくす消費革命に
なぬ消費の子にはよくない。国が殖の
いよのかし別れる。※

日本の過去家族の時代には家族は一つの
生産共同体としての役割を持つ時よく働
いて世帯一家の経営する生産共同
体が大規模で地方は自分から合
理的な経営的なビューロクラシーの組
織を作りかしていた。島根県の共同組
の多くの村の家の役場部隊。マリア
ンヌ・ハーバは日本は資本主義ビューロ

※変化はまちがいなく行なわれることを行なって止まるようなものも知らぬ。
なお変へるならば変へるべき筋の変化変化を欠かなければならぬ。何かかわったり、機械的にこちらも変えるではなく自然なるべしあり。なお智なやセイはさけうれしいのならさけかよい。自然的に考えて変化しなければならぬ。一人前の日本人
レーチャーを楽しみ男さの手共の財団がうかくしたり活をつけ、政に私も子も人間としての共存なる場をもんかるかが考える。高英木の英木のすじゃ、モダーシャ、ズのヤットセキの亜に私まの本書の祝辞をもらいたい。
（ゆかめられて）
アメリカの新人はもイタリの映画も見んなん間仕を見たかすかもかもしれつ
この法は村落の近代化について示している。
ラレーはヨーロッパから家畜学校教授を共に研究したのであったが、日本の家族生活共同体の全地的組織の成長は見落っていたのである。この点についてはは日本人は自信をもってよい。

※日本の変化にもやセイを品十年にすれば二十年位もしたら新制度に変化ならよい。

村落の近代化が第二の主軸的変化である。（第二回）

身分的の近代化に同連する現象

（一）村落の分類（都市化、農村、中村、2、純農村、3、農村）（昭和十五年作）

（二）都市化現象（都市計画の拡張とと）

1、農村部に接同の増大過程

市制人口の同伴の増大

3、合理化の過程（昭和三十五年 私の都市構造研究）

（三）成長要素の二つの型

1、常住人口は初期（前近代型）自然的

2、常住人口は初期（近代型）（昭和三十九年）行政的（人口政策）

（四）交流圏の拡大と交流の過程の

結節（最近における日民所得倍増）（昭和三十九年）

（五）行政組織基盤（論 口頭論）（昭和三十九年）

二、日本の人口は体質的に変化しつつあるのである。

村落の近代化は農業的に都市化に外ならぬ。

都市化には次の三つの変化過程が含まれている

第一、農村部に結節的機関（集散的機関）の増大の過程

第二、市制人口との社会同伴の増加の過程（それは自然的の変化が伴うもの）

第三、社会同伴における合理化の増加の過程

伝統共同の持続、意味共同の時間的深度
未体験の強さ、神々は自然、村の場合
成員更新の原理
都市近郊社会の場合は近代化と
「なぜ戦争、選挙、期日、多
数決、理性の都市に見られる集
団活動の型は、二次的
正に近代型
第近代型は代表者は一戸又は数戸
に固定、当屋かやオヤー神託(巫女)
宿駅の道家の世襲。
ケネディーの子孫への米人の期待

一 採用の決断、都市の社会構造
二 落葉時型へ常緑時型
人口更新の二つの型
三 成熟型 自我 自我 民主主義(縄張主義)
全現象 一致。選挙 多数制
多数決、市場制
都市と農村の別は一方は
村落義理人情の場、未決断の人間関
の弱さ・の社会
都市は今の時点の場は決定される場
同体
力とレッの市民同体の場
都市化か近代化とみるか。

旧と新の別あるところとなったとこう。

※日本では都市生活は合理化している。即ち近代化している。農村はまだ家族的なものが残っているから、都市化することによって近代化している。

※家族的なものが残っている日本の今日では都市化は近代化を意味する。

しかし何故に都市化は近代化を意味するのかは、日本社会のものが近代化している第四では都市化は農村の消滅を意味し、又は村落的取扱いが都市並みに進むのである。我が国では個人主義、自由主義はまだ農村には浸透せず、民主主義化による合理化がおくれているから、それを身につけるのは現在都市化が近代化と同義になっている。※

地理学的視野
社会的空間の概念は保利
法則的歴史的動的視野

第三回（六月十日）

文化成長史上に現在日本の急変化を考える。

二小教要いるはな、然るそれを考へる。

正倉院の品物と世界の古代の文物。

王朝時代の文物、当時の百姓

教科書の試案の文化決しては

くらしのうつりかわり

百姓の生活はいつも然陣であった。

明治以降の日本の発展と百姓の貢献。

絵巻物の口語の変遷を通じた小

日清日露の戦争をなぜ、けれのも

地租がこの時期、その上面積本べ

しおさめた。

口語統制りその2は百姓洪水の

自然村が存続する限りその根深い伝統と共に国家の財源としての百姓の村はいつまでも存続するであろう。

※政治がその上におおさっていた農業が清算されること、それが農村の解放化であり、近代化である。

絶対的なすべてこの方向に向った努力であり、向ったのは大半の一生代の戦時までの古い歴史のなかであった。

戦後の農地改革より町村合併を指定の高度経済成長で俄かに移動的就職時の時が開けたと共に都市化近代化が進んだのである。

俄かに

自然村が解体しない限り政治の原心のとしての百姓の体質は改まることはない。

解体することによって百姓も一人前の国民

道とその日が大問題。

今の大変化はそんな意味の百姓がなくなり農業金学作としての農場が出現した。

百姓もはじめて

農業学の国民として

の生活が農村にもなった

ものである。今こそ土地の生産に必要

物資が新しい国民生活体験の

かけがえのないものが大変化である。※

その為には地域統治組織を拡大

することが必要である。

民主

境界の拡大は政治の成長を意味し、

生活圏の拡大は文化伸ばしておこる。

と考え得る。我はいうかもしれない農業金学としての農場が作る。

※行政圏の拡大はその場合毎に住民に大変な負担を強いるのかも知れない。

住民行政圏は最低限の住民接触の上に立ちながら、やがて世界の家への前進を準備するように考えられる。住民社会の交流は家圏の動的発展。

政治家の覚悟は清算されるべきに拡大はつづいて行くのである。

人間の地域共同の基礎

対州の歴史、長崎県上県の村の中のアンシーラム、

生活圏が自然に拡大し政治圏から外に伸びるのは当然である。

社会生活前進の連合体は方向を示唆するは政治である。正しい政治家は※出現が期待される。※

新社会的処理は何か法人で人間関係の利害調整となる。

人間関係の型の研究は学的問題である。

知覚と対馬の吹揚。

地面古墳の出「就去の共同期は二出来」

近畿、近陸、北海、日家。

一、古墳の洞窟の中口人

一、口民島一物に学摸

万人か万人を敬ひした時代

山を注すれば山の神の信仰

なれはなすこれ。

交流圏の拡大と遠方の増大。

現家の都的発展による口民

社会の進展。これが私の

の講演の交流発展は今も継続。

最終回（六、一七、）

市民は都市化によって、近代化しつ、ある。

個人主義化、自由主義化、合理化しつ、

ある。①道路、バス、タクシー、②産業の地方化、③教育

都市も古い城下町の構造の解体

は大土地業より。現代二層、現夫婦子夫婦

レ中心の公園は大製造工業者やや

発展、金業主の指導により、急速

に発展した。交通業、商社業の振興、

マーケット、ショッピングの発展、

今で、さくらの

教育のナワバリなく上下

同位もなくなって、口民の民族的の

多様。

合理化の形式用におけ。

時間的秩序の問題。

労組、組織による被支配者群の生活向上の運動

地域団体における近代化の意味

共同生活共同経験の中にすべて決済、関係や階級的意識を獲得して来

現在の人の力や活性化を高めるいい人を等

地位や役割を定めるいい人を等

生活運動のためには選挙制と

多数決の方法を活用して個人を社

自治を基礎とした合理主義民

主主義による新団体である。

（をもとにした社会）

団体

役員の任期つき選出と

議決の多数決決定が主である。

これは近代における機能集団の

構成原理である。自由契約、合理の成立

自然や人生や宇宙に関するいろいろ

は別であって、日本の民のはすばらしい

菊造りの世界

縁故団体の比率

あるいは党の配分の国会

上層における国会・下層における

党員・学閥・流閥・利害の縁

アルバイト部分とフンケイの支

我々の時代

① 大都市の大企業体の

レジャーの時代、家庭電化、消費革命、

テレビ、ラジオ、週刊誌、旅行、ブーム、出版

右は何れも都市の大企業体の事業

展の為、交通、公園（電車、バス、私鉄）の発展

公共、機関、ホテル名所は観光地、遊園地、娯楽場

アパート、団地

昭和十年頃は農村の職場が
心配であった。分家慣行弱る
今は主人は出稼、長男は都市に
就職　私は三ケ月間
家は長男を私の為めに拘束
もっていた。自由を束縛しない
子供達の結婚に対し、決定力があった。

家庭と社会（職場）は直
接の生活の場、そこでの人の変化
は社会に於て自由化平等化、合理化
は今後ますます成長しつゝある。
気が引ける心をすてる
大らかで
ゆったり物をみる
自信をもつ
こだわらない

大工場の經營發展の為に盛大になって
来た結婚式、該種の宴会、同窓会等
交通機関（列車、電車、バス、飛行機、船）
ホテル（温泉）を中心とした工業、
土地建築、家屋電化、農業電化、
皆大企業体の拡大による。

労働組合
人事管理
最低賃金制
小中学校教育
自治の活動
各種の政党
マスコミ

個人主義、自由主義、合理主義の発達、
古い伝統的秩序の消滅、現在の生活
社会関係における近代化。協力組織における
近代化は欧米文化の方向が最上。傳統の
愛は自分を犠牲にする個人主義の当然のもの

自然や人生や伝統に芸術や哲学に触れる時は
いつは日本は優秀と思う。（ハラの世界）
ズケズケ物をいう少年の声は近代的理性の声
それを問うて広まる私達は前近代的な
階層の秩序や制約の心に引っぱら
れるからである。

理論の根拠

村落分類理論（農村研究）

都市化の理論（都市研究 ヨーロッパ化の論）

都市化理論（日本の都市化理論）　城下町研究

代表的類型三類（前近代より近代）

民俗学研究　民俗学理論

行政機構　民俗学研究